

道標ない旅

自分も人も大切に
～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～



令和3年度 第30号
2021.12.1発行
葉山町立長柄小学校
校長 益田孝彦
Tel. 046-875-6860
Fax. 046-876-0682

<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

◆◆ 12月の行事予定表を紹介します。 ◆◆

令和3年	日曜日	週	12行事予定	授業時数							
				1	2	3	4	5	6	60	モ
1	水	B	プール(4年②) 短縮4時間(13:15下校)	4	4	4	4	4	4	4	○
2	木		朝の集い(月目標)	5	5	5	6	6	6		
3	金	週	鎌倉見学(6年)SSW来校 通学路点検	4	5	5	5	5	5	●	○
4	土		ニコニコ保育園イベント								
5	日										
6	月	A	「教室へ行こう」取材 研究全体会	5	5	5	5	5	5	●	
7	火		SC来校	5	5	6	6	6	6		○
8	水	週	たてわり遊びの会	5	5	5	5	5	5		○
9	木		朝の集い(校長)	5	5	5	6	6	6		
10	金		鎌倉見学予備日	4	5	5	5	5	5	●	○
11	土										
12	日										
13	月	B	中学校訪問(6年)	5	5	5	5	5	5	●	
14	火				5	5	6	6	6	6	
15	水	週	プール(4年③) 職員会議	5	5	5	5	5	5	●	○
16	木		朝の集い(児童)	5	5	5	6	6	6		
17	金			4	5	5	5	5	5	●	○
18	土										
19	日										
20	月	A	PTA運営委員会	5	5	5	5	5	5	●	
21	火		SC来校	5	5	6	6	6	6		○
22	水	週	給食終了 短縮4時間 不審者侵入訓練	4	4	4	4	4	4		○
23	木		朝の集い(児童) 短縮3時間	3	3	3	3	3	3		
24	金		終業式 短縮2.5時間	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5		
25	土										
26	日										
27	月		冬季休業開始								
28	火		閉校日								
29	水										
30	木										
31	金										

(1) 6年鎌倉見学 12月 3日(金)
12月10日(金) 予備日

(2) SC来校日は以下の通りです。
12月 7日(火)
12月21日(火)
利用希望は教頭までお伝えください。

(3) プール関係(丸数字は何回目かを表示)
1日(水) 4年生②
15日(水) 4年生③

(4) 朝の集い
12月 2日(木) 月目標(終了)
12月 9日(木) 校長集会
12月16日(木) 児童担当(保健委)
(生活美化委)
12月23日(木) 児童担当(交流委)
(飼育栽培委)

(5) クラブ・委員会関係
今月は予定していません。

(6) 県教委「教室へ行こう」取材日
12月6日(月) 研究全体会の日
総合的な学習の時間研究授業等を取材

(7) サポート学習教室
A週の12月10日(金)および
B週の12月17日(金)は、
週2回参加者の参加日です。
2学期の学習サポートは、
12月21日(火)が最終日です。
なお、3学期のサポート学習申し込みの
締め切り日は17日(金)です。
令和4年1月17日(月)から開始します。

(8) 特設授業
6年中学校訪問 12月13日(月)

◆◆ 東京の感染者は30名以下が続いてますが、世界ではオミクロン株の急拡大が懸念されています。 ◆◆

ヨーロッパでは1日の感染者が各国数万人という状態で、制限緩和が早すぎたといわれています。加えて国が再度取ろうとする感染防止対策には反対派の人もいて、暴動まで起こっています。日本より接種率の高いお隣韓国でも、1日4千人を超える感染の広がりを見せています。専門家が言う、「第6波は来る」という予想もあながち否定できません。ただ、東京・神奈川の感染状況は今現在、悪い状況とは言えないので、「今がチャンス」と考えています。おかげさまで、6年鎌倉見学を除く遠足を全てやりきりました。今まで制限していた「調理実習」といった食べることを扱うイベントも解禁しています。授業形式も対面場面が増えても了承しています。かつての日常との違いは、「マスクの着用」です。マスク無しで生活させたいという保護者の方の自由記述意見も読ませていただきました。お応えしてあげたいのですが、世界の状況に目をやると、緩和の早過ぎに陥りたくないとも思います。マスク生活は今しばらくお願いすることになりますが、何卒ご理解いただきたいと願います。

◆◆ 長柄小学校で水ぼうそうの罹患者が増えています。 ◆◆

校内の罹患者が増えています。潜伏期間が2週間程度なので、すでにかかっている児童は防ぎようもありませんが、体調が悪いときには無理をせず、発疹が見られたときは早めの受診をお願いいたします。

◆◆ 3学期の「サポート学習教室」は、以下のようにするつもりです。 ◆◆

保護者の方からの自由記述を考慮しました。基本的な姿勢を、「3学期につきましても、引き続き同じ体制で、サポート教室を開催したいと思います。」として「自ら参加する意志のある児童であることを基本の参加資格に」としていますが、「学習に困り感のあるお子様や、学習支援が手助けとなるお子様のサポートが出来るようご相談に乗って、参加者を募ろう」と思います。これをして、お子様のやる気に自信の無い方であっても、「学校での学習生活にゆとりをもつための機会として参加をご検討」して欲しいと考えています。

参加資格も「3学期もまだ日が短いので、安全上ご家族のお迎えサポートが確実に出来る児童（必須条件）。約2ヶ月間ちょっと、担当指導員と地道に楽しく教室を続けられる児童。」と変更致しております。

2学期は、遠足に参加した児童が、「参加したい」と、学校にのこるケースがあるほど、サポート学習教室を楽しみにしている児童が沢山生まれました。素晴らしいことだと思います。3学期はやや短いですが、充実したものになることを期待しています。

なお、申込書の配布は12月8日（水）を予定。参加申し込みの〆切は12月17日（金）を予定。12月中に、3学期の参加曜日を決定し、1月17日（月）から実施する予定です。

◆◆ 先日の放課後、自転車の交通事故が起きました。 ◆◆

事故現場は、小野山歯科医院の裏手を通るかつての通学路（御霊神社～若宮陶器付近）に、坂道で降りてくるT字路です。幸い相手の車輻が裏道なのでスピードを出さずに通行していたおかげで、鉢合わせして転倒しても、車がすぐに止まり、車輻に巻き込まれることが回避できました。救急搬送されましたが、軽傷で済みました。

先日の学校評価アンケートでは、「自転車の点灯が暗い」というご意見の中に、「坂道をスピードを出して降りていく」という表現がありましたが、坂道の先での出会い頭の自転車事故は、本年度2件目です。私たちが危ないと警告するほど、児童は危険性に気づけていないようで心配です。自転車に限らず、キックボード等でも同様に危険があります。学校でも指導いたしましたが、是非各ご家庭で、いのちを大切にしている危険回避行動についてご指導宜しく願い申し上げます。

◇◇ 「関係性で物事を捉えていくこと」……アドラー心理学をご存じでしょうか？ ◇◇

学校だより27号でも述べましたが、最近服装や髪型で表現の自由を感じる場面があります。願うのは、「いつでもそれをやめられる」フットワークの軽さがあって欲しいなということです。小学校時代に、服装や髪型やおしゃれに興味を持ってチャレンジするのは構いません。でも、そのことを「こだわり」にまで育てないように、自分自身と上手に付き合ってほしいのです。「こだわり」にまで育ててしまった生徒（児童）の生活を見てきた限り、大変生きづらい、ゴツゴツとした生き様に、なってしまう人がほとんどだからです。保護者の方々には、特にそのことをしっかり意識しておいて欲しいなと思います。「その髪型で無ければ自分では無い」といったこだわりを持ってしまったら、中学校の「校則」で、必ずや先生方の指導と対立してしまうことなのでしょう。先生方とそんなことでずれてしまうと、楽しい学園生活は望めないでしょう。いわゆる反抗期と重なって、ゴツゴツとした生き様になって、場合によっては保護者の方ともずれていってしまう可能性すらあるのです。

中学校教師だった、私自身は、当時、アドラー心理学の考え方に会えたことが、児童生徒を育てていくために大きな転換期になったと思っています。学校に反抗して服装・髪型・言葉遣い等で体現している生徒は、学校から「悪いやつ」というレッテルを貼られます。学校とそういった生徒は敵対関係に陥るのが普通でした。そんな時代にアドラー心理学は、生徒は「悪いやつ」ではないと考えます。悪いやつと思える生徒も、家族や飼っているペットに優しく接している。「悪いやつ」では無くて、学校と生徒の間にある関係性が「悪い関係」にあるだけなんだと考えるのです。本質的に悪い人なら変えられないかもしれませんが、間にある関係性が「悪い関係」だとしても、「関係性は変えられる！」というのです。この考え方は、昔からあったわけではなく、当時新しい考え方として提唱されました。私にはとてもじっくりいく説明だったのです。関係性を変えるには、そのどちらかが重心をずらし、考え方を換えればいい。教師と生徒の校則にかかる指導でいえば、先生方の考え方をずらしてあげると、関係性は変わり始めるというのです。もちろん粘り強さが必要でしたが、この考えに出会ってから、私の生徒指導は最終的に信頼という絆にたどり着けるようになりました。

たまに耳にする児童や保護者の方からの教師批判もこの枠組みで考えていければと思います。関係性が悪いとき、双方どちらも重心をずらす努力が無ければ、対立は消えることは無いでしょう。しかし、児童・保護者と教師のどちらかに重心をずらす、つまり「悪い関係性を改善しよう」という努力がある場合は、時間をかけてでも関係性の修復に期待を持つことが大切だと私は信じます。そこで現実に関係性が変わっていくことを経験することが、一番大切な人生の学習だと思うからです。単に相手を批判したり、人そのものが入れ替わることを願ったりする手法しか学んでいかなければ、人生の荒波を自分の経験値で乗り越えることが出来る人には育ちません。大切なのは、相手が関係性を変えるために努力しているかどうかを見抜く目を養うことと、自分自身が粘り強く関係性を変えられる人に育っていくことなのだと思います。